

2018年11月27日

**当社の十二指腸内視鏡に関する一部報道について**

11月25日より、一部の報道で当社の欧米市場向け十二指腸内視鏡に関する内容が取り上げられておりますが、これに関し、下記の通り当社の見解をお知らせいたします。

欧米の一部の地域における薬剤耐性菌への感染について、「内視鏡の洗浄・滅菌しにくい構造が原因の可能性はある」旨の報道がされておりますが、本件に関し原因が特定された事実はありません。当社が販売するすべての内視鏡は、取扱説明書に従って、適切な使用・メンテナンス・リプロセス（洗浄・消毒・滅菌）をしていただければ、安全にご使用いただけることが確認されています。また、十二指腸内視鏡を用いた主な手技である内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)は全世界で年間200万症例実施され、安全に執り行われています。

現在米国にて、十二指腸内視鏡に関する民事訴訟を受けております。報道されております内容につきましては、今後の裁判の中で当社の見解・主張を明らかにしていきます。

当社は患者・医療従事者の皆さまの安心・安全が最優先事項であると捉えており、今後も医療関係者と協力してより安心・安全な医療機器の開発を進めてまいります。